

移民・出稼ぎ関係新聞記事集成

— アジア・太平洋地域 —

具志川市教育委員会
教育部市史編さん室

発刊にあたって

ここに『移民・出稼ぎ関係新聞集成―アジア・太平洋地域―』をお届けします。

『具志川市史』第四巻移民・出稼ぎは「論考編」「資料編」「証言編」の三編構成という理想的な発刊となりました。本書は同巻編集の副産物としてアジア・太平洋地域の移民と本土出稼ぎに関する新聞記事を集成したものです。

第二次世界大戦で唯一地上戦が展開された沖縄県は、当時の社会情勢を知る貴重な資料である新聞資料も灰塵に帰し、現在マイクロ複製本として流布している新聞も、そのほとんどが国立国会図書館や大学図書館等で保存されてきたものであります。ところが、現存する新聞も、アジア・太平洋地域や本土出稼ぎを知るために重要な時期となる大正中期から昭和初期にかけての新聞は、大半が欠落している状況であります。

本書の編集には、当室保存のマイクロ複製本を活用して翻字し、編集したものです。マイクロ複製本は欠字・綴じ代部分の不鮮明箇所が多く、翻字にも一苦労した経験をおもちの方は多いと思います。それだけに、より厳密を期すためには、各原紙との照合が欠かせないのであります。今回はその時間的余裕もなく、それが果たされなかったことは残念でなりません。これから移民・出稼ぎの市町村史編集にあたる事務局には、本書をてがかりとして活用される場合、収録にあたつてはぜひ原紙チェックをしていただくことをお勧めします。

これまでの移民関係の新聞資料はハワイ・南米の記事を中心としてなされ、アジア・太平洋地域に関しては、フィリピンやニューカレドニアに関する明治時代の記事が翻字されてはおりますが、大正から昭和にかけの記事や南洋群島関係の新聞記事をまとめて刊行されたものは、管見の限り確認できません。せつかくこれだけ翻字をしたものを私蔵するよりは、刊行して研究者や今後の市町村史編集に活用していただくことを考え、編集資料の一環として刊行することにしたのであります。

平成十四年三月

移民・出稼ぎ関係新聞記事集成―アジア・太平洋地域―

目次

発刊にあたって

凡例

解説（上江洲敏夫）

記事目次

フィリピン

帝国殖民会社の移民募集（明治37年2月27日 琉球新報）	31
特別広告（明治37年4月7日 琉球新報）	31
マニラ移民（明治37年4月7日 琉球新報）	31
マニラ移民の出発（明治37年4月17日 琉球新報）	31
マニラ移民と希望者（明治37年4月25日 琉球新報）	31
特別広告（明治37年5月11日 琉球新報）	31
特別広告（明治37年5月15日 琉球新報）	31
特別広告（明治37年6月15日 琉球新報）	32
中頭郡の移民志願者（明治37年6月23日 琉球新報）	32

農家の子弟と無職業者 (明治37年7月7日 琉球新報)	32
特別広告 (明治37年9月11日 琉球新報)	32
特別広告 (明治37年9月19日 琉球新報)	32
特別広告 (明治37年11月27日 琉球新報)	32
マニラ移民に就て (明治38年3月17日 琉球新報)	32
広告 (米領ヒリピン行農業移民募集) (明治40年11月7日 琉球新報)	33
広告 (比律賓マニラ行移民募集) (明治41年6月24日 琉球新報)	33
比律賓の希望移民 (明治42年3月24日 琉球新報)	33
ヒリッピン行移民の出発 (明治42年4月13日 琉球新報)	33
ヒリッピン行移民の出発 (明治42年6月7日 琉球新報)	33
比律賓群島渡航移民に関する件 (明治42年6月9日 沖繩毎日)	33
比律賓と本邦移民 (明治42年11月22日 沖繩毎日)	33
比島移民の惨事・結婚披露の席上にて本邦人五名殺害 (明治45年1月10日 琉球新報)	34
南洋通信 (大正2年11月25日 琉球新報)	34
南洋漁民募集 (大正3年1月11日 沖繩毎日)	35
南洋漁業移民応募者に注意 (大正3年1月12日 沖繩毎日)	35
比島移民募集 (大正3年5月7日 沖繩毎日)	35
南洋と本邦移民・自由移民歓迎 (大正5年11月26日 琉球新報)	35
マニラ移民の当たり・月に百円は残る (大正6年8月27日 琉球新報)	36
比律賓だより (上) 高江洲倭公 (大正7年2月25日 琉球新報)	36
比律賓だより (下) 高江洲倭公 (大正7年2月26日 琉球新報)	37
沖繩移民恐慌・南洋渡航者注意 (大正7年3月6日 琉球新報)	38
注意、南洋行き移民・香港総領事田場書記生より通信 (大正7年3月8日 琉球新報)	39

心機一変した・南洋から帰った当間重祿は語る (大正7年3月9日 琉球新報)	39
比律賓密航者取締・密航は全然不可 (大正7年5月27日 琉球新報)	40
麻尼拉移民許可 (大正7年5月27日 琉球新報)	40
比島邦人土地問題 (大正7年5月27日 琉球新報)	40
本年最後の移民船出発・大半は沖繩人で比島移民が目的 (大正15年12月17日 大阪朝日)	40
沖繩からの海外渡航者相変わらず多い (昭和2年12月8日 大阪朝日)	40
ヒリッピン移民の検査を基降で (昭和7年11月6日 大阪毎日)	40
不況に追はれて・着の身着のまま帰郷・沖繩の海外移住者 (昭和8年11月28日 大阪毎日)	41
比島在住の邦人を慰問に渡航の沖繩県の牧師さん (昭和9年7月16日 大阪毎日)	41
南洋移民の慰問に湧上牧師渡航	41
*移民の先駆者、うらぶれて故山へ (昭和10年7月21日 大阪毎日)	41
四十九名が鹿島だち・長崎移住教養所最初の記録 (昭和10年9月2日 大阪毎日)	41
移民群のために実質的の活動・長崎移住教習所の試み (昭和11年4月6日 大阪毎日)	42
南洋移民の船出・きのふ長崎港から (昭和11年4月20日 大阪毎日)	42
沖繩移民の比島渡航・急激に増加 (昭和11年12月11日 大阪毎日)	42
半ヶ年間の海外渡航者・総数千四百十三名・比島への移民が大多数 (昭和12年6月29日 大阪朝日)	42
幸風薫る「新しき土」・朗らかな沖繩移民群 (昭和13年2月17日 沖繩日報)	42
*海越えてダバオから熱意こめた慰問金 (昭和13年3月13日 琉球新報)	43
比島と南洋の県人・各方面の実権握る (昭和13年3月13日 琉球新報)	43
*比島から慰問金・北谷親睦会の実権 (昭和13年3月21日 沖繩日報)	43
比島と南洋の県人各方面の実権握る・ダバオ県人会の樹立先鋭化 (昭和13年3月13日 琉球新報)	43
マニラ漁業の実権・沖繩漁夫で独占す (昭和13年3月29日 沖繩日報)	44
ダバオ開拓史に残す不滅の功績・大城氏胸像除幕式 (昭和13年4月17日 沖繩日報)	46

バオ開拓の恩人・故大城孝蔵氏の胸像除幕式挙行 (昭和13年4月18日 琉球新報)	46
ダバオ邦人の麻をもつと買へ・上原氏が代表陳情 (昭和13年4月19日 沖縄日報)	47
マニラ麻輸入制限、我同胞に打撃・上原仁太郎氏帰朝す (昭和13年4月23日 沖縄日報)	47
大城孝蔵氏胸像・山田真山氏苦心の作 (昭和13年4月23日 沖縄日報)	48
母国の輸入制限で麻栽培者は嘆く・ダバオ日本人会陳情内容 (一) (昭和13年4月23日 琉球新報)	48
母国の輸入制限で麻栽培者は嘆く・ダバオ日本人会陳情内容 (二) (昭和13年4月24日 琉球新報)	49
母国の輸入制限で麻栽培者は嘆く・ダバオ日本人会陳情内容 (三) (昭和13年4月25日 琉球新報)	50
母国の輸入制限で麻栽培者は嘆く・ダバオ日本人会陳情内容 (四) (昭和13年4月26日 琉球新報)	51
母国の輸入制限で麻栽培者は嘆く・ダバオ日本人会陳情内容 (完) (昭和13年4月27日 琉球新報)	51
ダバオ邦人の生命・麻の輸入制限でダバオ県人会長上原氏奮闘 (昭和13年4月23日 琉球新報)	51
広告 (大城孝蔵氏胸像建設記念講演会) (昭和13年4月25日 沖縄日報)	52
急告 (昭和13年4月25日 沖縄日報)	52
大城孝蔵氏・あす胸像除幕式・ダバオ開拓の功績讃え (昭和13年4月26日 沖縄日報)	52
故大城孝蔵氏胸像除幕式・けふ開洋会館で挙行 (昭和13年4月27日 琉球新報)	53
*大城孝蔵氏の伝記を執筆・仲原善徳氏帰省す (昭和13年4月27日 沖縄日報)	53
*大城孝蔵氏講演会・盛況を呈す (昭和13年4月27日 沖縄日報)	53
*大城孝蔵氏の母堂・眼潤せて参列・感激の胸像除幕式 (昭和13年4月27日 沖縄日報)	53
不滅の功績讃え故大城孝蔵氏胸像除幕式 (昭和13年4月28日 琉球新報)	54
*座談会「比島の同胞を語る」①⑩ (昭和13年5月16日・26日 沖縄日報)	54
母国の婦人へ・比島在住国頭婦人会が生活様式の改善を訴ふ (昭和13年5月25日 沖縄日報)	54
救済和15年5月4日 命艇建造・比律賓でも大賛成 (昭和13年7月28日 琉球新報)	54
花嫁や豆移民・沖縄から比律賓へ (昭和14年1月10日 大阪朝日)	55
南進比島移民へ悲報・突如、渡航停止さる! (昭和14年5月31日 琉球新報)	55

比島に入国禁止令・花嫁25名が立往生・突如、米総領事が発令 (昭和14年5月31日 沖縄日報)	56
花嫁移民の嘆き・フィリピン渡航停止が描く悲劇! (昭和14年6月2日 琉球新報)	56
旅券査証は一々ワシントンまで・空屋となった移住教養所 (昭和14年6月7日 琉球新報)	57
長崎移住教養所に移民のゐない風景・比島の入国禁止令で (昭和14年6月7日 沖縄日報)	57
*真昼の麻山道路で県人殺害さる (昭和14年6月7日 沖縄日報)	57
マニラ帰りの青年、徴兵忌避で取調べ (昭和14年6月9日 沖縄日報)	57
比島移民問題近く判明・仲田善助氏帰来談 (昭和14年6月13日 琉球新報)	58
再渡航者の入国は許可・比島移民の査証緩和 (昭和14年7月27日 沖縄日報)	58
ヒリッピン渡航全滅の危機・今後の樂觀は禁物! (昭和14年8月9日 沖縄日報)	58
ダバオ蕃人の凶行・県人惨殺さる・邦人婦人最初の犠牲 (昭和14年8月11日 沖縄日報)	59
フィリッピンへ再渡航者激増・同地の麻景気で (昭和14年11月7日 大阪朝日)	59
移民応募者の無い淋しさ・長崎教養所の昨今 (昭和14年11月13日 沖縄日報)	59
比島の邦人進出阻止策・南進移民に一抹の憂ひ (昭和14年11月23日 琉球新報)	59
入国禁止で比島移民激減・昨年中は僅か三百名許可 (昭和15年2月9日 琉球新報)	60
比律賓の移民割当・千名以内に制限・米国の差金で新法案 (昭和15年2月19日 沖縄日報)	60
ダバオの麻組合に輸出許可も目近か (昭和15年3月14日 沖縄日報)	60
比人の漁船を奪ひ新南群島へ高飛び (昭和15年3月30日 沖縄日報)	61
明らかに対日圧迫・比島移民の限定案 (昭和15年4月19日 沖縄日報)	62
新移民法案・比島議會を通過す (昭和15年4月19日 沖縄日報)	63
わが対米交渉を無視・比島議會新移民法可決 (昭和15年5月4日 琉球新報)	63
米連合艦隊の比島移動を否定 (昭和15年5月12日 琉球新報)	64
比島が移民制限令・県への影響は大きい (昭和15年5月13日 沖縄日報)	64
新移民法に拠る比島渡航手続・海外協会取扱を開始 (昭和15年5月15日 沖縄日報)	64

ダバオの麻組合に輸出権の付与・伊礼代議士も猛運動（昭和15年6月13日 沖縄日報）
 比島の密林を征服・卅七年振り岸本氏晴れの帰郷（昭和15年7月10日 沖縄日報）
 比島への移民・新移民法実施前に早急渡航手続せよ（昭和15年9月27日 琉球新報）
 比島移民は一日も早く・来年から五百人限り（昭和15年9月27日 沖縄日報）
 比島の米官憲は事態即応の体制撃（昭和15年10月13日 琉球新報）
 着のみのまま・糸満の漁夫ら比島から帰来（昭和16年9月10日 大阪朝日）
 ダバオ完全占領・快哉叫ぶ沖縄県民（昭和16年9月27日 大阪朝日）

ニューカレドニア

新移民地（明治38年9月13日 琉球新報）
 移民募集広告（明治38年9月13日 琉球新報）
 移民募集広告（明治38年9月21日 琉球新報）
 新募集移民の給料に就き（明治38年9月25日 琉球新報）
 移民募集大至急広告（明治38年9月27日 琉球新報）
 移民募集広告（明治38年10月19日 琉球新報）
 ニュー、カレドニア行移民（明治38年10月19日 琉球新報）
 移民出帆期日広告（明治38年11月7日 琉球新報）
 布哇ニューカレドニア移民（明治38年11月29日 琉球新報）
 沖縄濠州移民の出発（明治38年12月17日 琉球新報）
 無事着船特別広告（明治38年12月27日 琉球新報）
 南洋移民出発（明治43年12月20日 沖縄毎日）
 ニューカレドニア移民（明治44年4月30日 琉球新報）

仏国官憲のこの暴圧・ニューカレドニアから県人追放（昭和14年8月9日 琉球新報）

南洋群島

広告（南洋サイパン行募集）（大正13年11月21日 沖縄タイムス）
 一攫千金の夢想者へ警告・ドン底に泣く自由渡航者（大正14年3月5日 沖縄朝日）
 南洋移民に沖縄人を歓迎・一失業者の質問に南洋庁からの回答（大正14年7月14日 沖縄タイムス）
 広告（南洋サイパン行募集）（大正14年10月2日 大阪朝日）
 沖縄県人の南洋移住（大正14年11月27日 大阪朝日）
 広告（南洋サイパン行募集）（大正14年12月11日 沖縄朝日）
 第二の沖縄を建設するのが理想・移民地獄はあと形も無い（大正15年4月27日 沖縄朝日）
 南洋庁官憲も不当と認めた・サイパン島移民地獄の賃金（大正15年5月3日 沖縄朝日）
 南洋諸島の開拓と移住民・砂糖作に一万農家を要す（大正15年5月22日 沖縄朝日）
 賃金の事から沖縄人の罷業・四千名の農民人夫ら南洋興発と争ふ（昭和2年2月9日 大阪朝日）
 琉球地方からぞくぞく南洋へ・東洋拓殖会社が三千名の移民計画（昭和3年1月21日 大阪毎日）
 南洋諸島に住む沖縄県人は一人・みな興発会社の小作人・漢那代議士の視察談（昭和4年9月21日 大阪毎日）
 サイパンは既に労力が過剰した・「新規入島を阻止せよ」と南洋庁から通牒（昭和6年10月30日 大阪毎日）
 移民阻止を南洋から通達・出帆を前の幸福丸（昭和7年4月17日 大阪毎日）
 南洋であぶれる沖縄の移民・失業者を発動漁船に乗せ故国へ送り還す（昭和7年5月19日 大阪毎日）
 南洋を追はれ失業群帰る・惨めな県人の近況（昭和7年6月3日 大阪毎日）
 南洋直行船寿丸、出港間際差止（昭和9年11月16日 大阪毎日）
 南洋庁下で沖縄人を採用・蔵重知事本省へ要望（昭和11年7月28日 大阪毎日）

南洋に出張して入学試験施行・沖縄県で目下研究中（昭和11年9月24日 大阪毎日）	77
南洋も失業地獄だ・渡島しても就職のあてなし（昭和11年10月28日 大阪毎日）	77
南洋方面は移民の氾濫だ・無統制移民を取締る（昭和11年10月29日 大阪毎日）	77
沖縄県下の出漁団が裏南洋でトモ食ひ・表南洋へ出漁助成に転換（昭和12年1月13日 大阪毎日）	78
南洋から朗報・沖縄県に大量農業移民を注文（昭和12年2月18日 大阪毎日）	78
南洋出漁を統制・沖縄県で組合組織（昭和12年6月18日 大阪朝日）	78
南洋移民統制に沖縄県当局愈々乗出す（昭和12年7月3日 大阪毎日）	79
南洋行き人夫雇用条件・沖縄県と会社間に協定（昭和12年10月21日 大阪毎日）	79
移民座談会・川本南洋課長を迎へ（昭和13年1月13日 大阪毎日）	80
広告（南洋拓殖会社従業員募集）（昭和13年2月3日 沖縄日報）	80
広告（南洋興発会社農夫大募集）（昭和13年2月5日 沖縄日報）	80
南洋在住県人の熱烈な母県愛で愈々救命艇実現（昭和13年2月17日 琉球新報）	81
南洋行特別土木作業夫・二二〇人本月十三日出発（昭和13年3月1日 琉球新報）	81
広告（パオ才行農夫募集）（昭和13年3月6日 沖縄日報）	82
更に数百名募集・南洋出稼に朗報（昭和13年3月23日 沖縄日報）	82
けふ泰安丸が南洋直行・春の移民を乗せ（昭和13年4月18日 琉球新報）	82
南洋の県人職業歩道・倉田属出発（昭和13年4月20日 琉球新報）	82
南洋移民募集を繞り県と周旋屋が衝突する（昭和13年4月22日 沖縄日報）	82
南洋興発が農業の複雑化へ・真壁義孝氏来県（昭和13年4月24日 琉球新報）	83
* 南洋各島の事情踏査・仲原善徳氏帰県談（昭和13年4月26日 琉球新報）	83
南洋出漁補助事業・再検討加へられん（昭和13年4月27日 琉球新報）	83
南洋土木作業夫の送金を頼るな・県が留守遺家族へ通牒（昭和13年4月28日 琉球新報）	84
南洋出稼者の送金に戒告・県から各市町村へ（昭和13年4月28日 沖縄日報）	84

パオ才行サイパンー沖縄行路を南洋庁が近く開設（昭和13年4月29日 沖縄日報）	84
南洋は沖縄の延長・県民の援助を望む（昭和13年4月29日 琉球新報）	84
南洋行作業夫・十日出発の予定（昭和13年5月4日 沖縄日報）	85
節値暴落と餌魚難で漁村組合の解散続出（昭和13年5月12日 沖縄日報）	85
県当局に望むのは南洋直行船の改善児玉正作氏帰省談（昭和13年5月15日 琉球新報）	85
南洋サイパン渡航者・希望者の三分の一しか乗船出来ず（昭和13年6月13日 琉球新報）	86
南洋直航の船席異変・折角の協定もオチャン（昭和13年6月18日 琉球新報）	86
警察官や教員、沖縄県人を採用・サイパン支庁から打診に（昭和13年10月28日 大阪毎日）	86
南洋帰りの移民船（昭和13年11月4日 大阪毎日）	87
仲原善徳「南洋群島の近状」(四)（昭和14年5月1日 沖縄日報）	87
仲原善徳「南洋群島の近状」(六)（昭和14年5月3日 沖縄日報）	88
仲原善徳「南洋群島の近状」(七)（昭和14年5月4日 沖縄日報）	89
仲原善徳「南洋群島の近状」(完)（昭和14年5月5日 沖縄日報）	90
青年は多く南洋へ・志願兵も少ない・中頭の壮丁検査不振（昭和14年6月6日 沖縄日報）	90
労力の不足を沖縄から補充・藤本サイパン支庁長来県（昭和14年6月18日 琉球新報）	91
南洋各島連合県人会結成行悩む・サイパン分会が参加保留（昭和14年7月16日 沖縄日報）	91
南洋各島県人会連合会・十三日盛大なる発会式（昭和14年8月9日 琉球新報）	92
南洋各島県人会連合会成る・来る十三日結成式（昭和14年9月9日 沖縄日報）	92
南洋航空路旅客便開始・来る廿七、八日から（昭和14年9月18日 沖縄日報）	92
南洋サイパン行募集広告（昭和14年10月2日 沖縄タイムス）	92
大宜味朝徳「南洋三巡記」(一)「ヤルト島便り」（昭和14年10月15日 琉球新報）	92
大宜味朝徳「南洋三巡記」(二)「クサイ島遊記」（昭和14年10月19日 琉球新報）	93
大宜味朝徳「南洋三巡記」(三)「クサイ島遊記」（昭和14年10月20日 琉球新報）	94

大宜味朝徳「南洋三巡記(四)―躍進のボナベ島―」(昭和14年10月20日)	琉球新報	94
大宜味朝徳「南洋三巡記(五)―躍進のボナベ島―」(昭和14年10月25日)	琉球新報	95
大宜味朝徳「南洋三巡記(六)―トラック島の水産と県人―」(昭和14年10月26日)	琉球新報	95
大宜味朝徳「南洋三巡記(七)―トラック島の水産と県人―」(昭和14年10月27日)	琉球新報	96
大宜味朝徳「南洋三巡記(八)―玉城松栄氏の偉業―」(昭和14年10月28日)	琉球新報	96
南洋統治渡航者保護の新取締令・移民喰の取扱業者を封ず(昭和14年11月12日)	琉球新報	97
急告「海外各国渡航ノ方へ」(昭和14年11月18日)	沖繩日報	97
海協の陣容整ひ南洋渡航航路開始・市郡に出張所を新設(昭和14年11月21日)	琉球新報	98
外務省が南洋局新設・積極的に南方発展へ乗出(昭和14年12月8日)	琉球新報	98
「沖繩海外発展史」・県が編さん計画す(昭和14年12月9日)	琉球新報	98
移民業者が県令改正を陳情・副収入が唯一の収入(昭和14年12月11日)	琉球新報	99
移民業者取締強化で一般質問榎尾の賑ひ(昭和14年12月12日)	沖繩日報	101
内南洋群島で活躍の県人・五万人突破する情勢(昭和14年12月18日)	琉球新報	101
南方発展は必要・不侵略条約締結も結構(昭和15年2月11日)	琉球新報	102
南米、南洋方面移住奨励・拓務省が本県で講習会(昭和15年4月3日)	琉球新報	102
官幣大社南洋神社を創建・今秋までには鎮守祭(昭和15年4月8日)	沖繩日報	103
南洋へモシモシ・今秋から通話を開始(昭和15年4月13日)	沖繩日報	103
那覇に八航海寄港・南洋へ直航路考究(昭和15年4月20日)	沖繩日報	104
移民の教養訓練が必要・高里サイパン支庁属談(昭和15年8月31日)	琉球新報	104
南洋への出稼者激増・総数四万五千に上り県が対策(昭和15年9月6日)	琉球新報	105
南進国策の拠点・パラオ島の県人進出目醒し(昭和15年9月30日)	琉球新報	105
事務所移転広告(徳田信賢)(昭和15年10月8日)	琉球新報	105
南洋拓殖艇身隊を募る・十八歳以上三十歳の中堅青年(昭和15年10月15日)	琉球新報	105

水産、南進国策へ!・水産局海洋課を拡充(昭和15年10月24日)	琉球新報	105
南洋渡航者に禁足令・県が遂に宝刀を抜く・汽車汽船割引証交付を停止(昭和15年11月2日)	琉球新報	106
今度は青年学校生徒の南洋出稼を抑制・徴兵猶予者三千八百名(昭和15年11月5日)	琉球新報	107
南洋テニアン(アン)の県人が救を求む・南洋興発の仕打を暴露(昭和15年11月6日)	琉球新報	108
広告(南洋行農夫募集)(昭和15年11月22日)	琉球新報	108
南洋出稼募集者に鉄槌・労務者募集規則違反として警戒(昭和15年11月30日)	琉球新報	108
南洋庁管下にも徴兵令施行要望・移植民事務主任者が決議(昭和15年12月7日)	琉球新報	109
南方開発に沖繩県民の使命・岡島氏の談(昭和16年7月17日)	大阪朝日	110
南洋で活躍の沖繩の漁夫・宇田川水産技師に聴く(昭和16年2月15日)	大阪朝日	111

その他関連記事

四年間の本県移民(明治39年1月19日)		112
中頭郡の海外移民及其送金額(明治39年2月5日)	琉球新報	112
政府の移民方針(明治43年1月26日)	琉球新報	113
海外移民減少(明治43年9月10日)	琉球新報	113
南洋協会活動(大正7年5月27日)	琉球新報	113
*国頭郡移民送金(大正7年5月27日)	琉球新報	114
可憐なる移民・密航の多いのは検査の厳重から(大正7年5月27日)	琉球新報	114
大規模の会社を起し極力移民を奨励・南洋方面も調査(大正15年4月22日)	沖繩朝日	114
南米諸国を目標に海外移民の奨励・海外協会の使命重大(大正15年5月6日)	沖繩朝日	115
海外渡航者に愈々予備教育・活動を開始する海外協会(大正15年5月8日)	沖繩朝日	115

海外の出稼人は粒がよくなる(昭和2年2月9日 大阪朝日)	116
移民教育の徹底を期す・海外沖縄協会(昭和4年6月26日 大阪朝日)	116
海外移民の保護組合を沖縄県で設ける(昭和4年8月18日 大阪朝日)	116
海外移民周旋業開始広告(徳田信賢)(昭和4年8月28日 沖縄朝日)	116
蘇鉄地獄をすて・増加する海外移住民・昨年中に四千名が渡航(昭和5年1月16日 大阪毎日)	116
海外移民周旋業開始広告(伊波周旋所)(昭和5年7月24日 沖縄朝日)	117
海外へ延びる沖縄・繊維工も全国に五千人・その送金十四万円(昭和9年1月30日 大阪毎日)	117
沖縄県は移民王国・南洋方面に躍進(昭和10年7月5日 大阪毎日)	117
二百五十余万円・沖縄移民の送金調べ(昭和11年5月22日 大阪毎日)	117
沖縄県移民の家・開洋会館・その活躍と成績調べ(昭和11年10月10日 大阪毎日)	118
海外発展の礎石・小学校で移住民教育(昭和11年10月15日 大阪毎日)	118
飢饉苦の沖縄に流れ込む六十七万円・沸き立つ南島の旧正月(昭和12年2月12日 大阪毎日)	118
孤島沖縄の移民史・那覇市の人口と同じその人数(昭和12年3月4日 大阪毎日)	118
小学校の正科に「移民科」と「水産科」(昭和12年3月4日 大阪毎日)	119
移民の送金三百五十万円・鼻高々の沖縄県(昭和12年3月11日 大阪朝日)	119
移民王国の沖縄県が指導職員設置要望(昭和12年5月27日 大阪毎日)	119
漁業と移民の糸満町・児童に実地教育(昭和12年6月13日 大阪毎日)	120
沖縄移民立県・先づ南洋漁場の独占を目指す(昭和12年6月29日 大阪朝日)	120
年々移民が三千人・沖縄県の海外植民県是(昭和13年1月7日 大阪毎日)	120
沖縄県人の海外発展に青少年の移住民教育必要(昭和13年2月24日 琉球新報)	121
移民汗と努力の結晶で郷里を潤はす送金!・昨年中に三百五十六万余円(昭和13年4月12日 琉球新報)	121
50名の船席奪はれ何処行く南洋移民・路頭に迷ふ女子供や貧困者(昭和13年6月21日 沖縄日報)	122
南方拓殖挺身隊道場・三万円を投げ出し金武村に建設(昭和14年5月5日 琉球新報)	123

県の南方移民政策に一大転換期到来す!(昭和14年5月19日 沖縄日報)	123
海外雄飛の功労者・拓務省が近く表彰(昭和14年7月27日 沖縄日報)	124
殺到した盆の送金・筆頭は南洋と南米(昭和14年8月26日 沖縄日報)	124
豪勢!旧盆の送金・移民の汗50万円(昭和14年8月29日 沖縄日報)	125
88万円とは豪勢な郵便局窓口に氾濫・旧節季に海外から流れ込む(昭和15年2月10日 沖縄日報)	125
海外移民送出の万全期し本県に移住組合新設(昭和15年3月16日 琉球新報)	126
移住民事務嘱託市町村に設置・三十一名発令(昭和15年3月25日)	126
海外移住組合設立・官民協力、開拓精神喚起(昭和15年4月20日 琉球新報)	126
海外雄飛に五ヶ年計画を樹立・移住組合設立を急ぐ(昭和15年4月20日 沖縄日報)	127
衛生課長官舎跡に移民訓練所の寄宿舎建設(昭和15年4月21日 琉球新報)	127
移民周旋業者の反則・県保安課が厳重取締り(昭和15年4月27日 琉球新報)	128
海外移民の送金高百五十三万円・新進出は満支や印度(昭和15年5月16日 沖縄日報)	128
本県に拓務課を新設し拓土送出に馬力をかける(昭和15年6月7日 琉球新報)	129
徴兵検査後の海外渡航・連隊区司令官の承認書が必要(昭和15年7月8日 琉球新報)	129
南方政策の一元的基本方針(昭和15年7月16日 琉球新報)	129
南方漁業区拡大さる・本県漁夫の活躍は南洋水産の推進力(昭和15年7月25日 沖縄日報)	130
出稼者抑制・商船の乗船制限(昭和16年6月1日 大阪毎日)	130
乗船制限徹底・県外出稼制限(昭和16年6月11日 大阪朝日)	130

朝鮮

合併と韓国移民(明治43年9月8日 琉球新報)

本年の朝鮮移民（明治43年10月27日 沖繩毎日）
朝鮮移民募集（大正2年5月6日 沖繩毎日）
朝鮮移民募集（大正3年3月13日 沖繩毎日）
朝鮮移民募集（大正7年5月10日 琉球新報）

台湾

出稼人募集広告（明治43年9月12日 琉球新報）
台湾の移民準備（明治42年12月3日 沖繩毎日）
台湾の移民（大正2年11月28日 琉球新報）
台湾移住者・農業移民を募集す（昭和10年11月29日 大阪毎日）
煙草移民出稼す（昭和11年7月8日 大阪毎日）
台湾農業移民・十一日出稼（昭和12年4月9日 大阪毎日）

満蒙開拓・青少年義勇軍

対満蒙移民政策（大正2年8月12日 沖繩毎日）
満蒙拓殖好望・主として農業経営（大正3年4月23日 沖繩毎日）
満州国移民の募集要項・不況時代に耳寄りな話（昭和7年3月22日 大阪毎日）
満蒙開拓に愈々乗出す・東方協会設立さる（昭和7年7月8日 大阪毎日）
満州移民九州地区協議会で五年間の移民割当決まる（昭和12年1月17日 大阪毎日）
鹿児島県の満州移民振当（昭和12年1月31日 大阪毎日）

満蒙開拓青少年義勇軍・早くも四十名に達す（昭和13年2月17日 琉球新報）	137
満州農業移民指導員、昨日選考を行ふ（昭和13年3月1日 琉球新報）	137
満州の大地は招く・沖繩農業移民有望（昭和13年3月9日 琉球新報）	138
満州農業移民・指導者のトップ・渡慶次賀善氏勇躍出稼（昭和13年3月10日 琉球新報）	138
*行け楽土の佳木斯・沖繩移民の最好適地（昭和13年3月15日 大阪毎日）	138
満蒙開拓青少年、沖繩から六十名（昭和13年3月17日 大阪毎日）	138
*青少年義勇軍・四月十二日頃出稼延期（昭和13年3月27日 琉球新報）	138
満州集団移民と義勇軍幹部募集・資格は四十五歳以下（昭和13年4月12日 琉球新報）	139
経済更生計画に織込み満州移民を奨励！（昭和13年4月13日 沖繩日報）	139
*糸満漁民道場に七百万補助（昭和13年4月25日 沖繩日報）	139
開拓の希望に燃え勇躍満蒙の新天地へ・本県の青少年義勇軍先遣隊（昭和13年5月1日 沖繩日報）	139
初の満州農業移民、本県から十五名（昭和13年5月27日 沖繩日報）	139
満州農業移民募集要項決定・一人補助八九〇円（昭和13年5月28日 沖繩日報）	140
満州移民は既定方針で・大谷拓相昨日満州視察へ（昭和13年5月31日 琉球新報）	140
満蒙開拓青少年義勇軍・来る十六日勇躍渡満（昭和13年6月12日 琉球新報）	141
青少年義勇軍幹旋週間・十五日に映写会開催（昭和13年6月14日 琉球新報）	141
満州国策移民は遂行・大谷拓相北満視察より帰京（昭和13年6月17日 琉球新報）	141
経済更生計画・満州移民に拓務省が助成金交付（昭和13年6月19日 沖繩日報）	141
満蒙開拓の若き戦士・青少年義勇軍！・7月6日勇躍壮途へ（昭和13年6月24日 琉球新報）	141
*小学教員の満州移民視察（昭和13年6月26日 琉球新報）	142
那覇尋高校の義勇軍熱（昭和14年1月19日 大阪朝日）	142
県民の約半数卅万人送る・大規模な沖繩分村計画（昭和14年5月13日 大阪朝日）	142
拓け満蒙を国策に従へ・内原訓練所、伊礼正浩君便り（昭和14年5月13日 琉球新報）	142

満洲移民宣伝や大陸の花嫁訓練・各郡で講習会等開催（昭和14年6月11日 琉球新報）
 満蒙開拓青少年義勇軍教練指導員募集（昭和14年6月17日 琉球新報）
 満洲農業移民・補助八九〇円（昭和14年6月17日 琉球新報）
 青少年義勇軍現地に青年学校（昭和14年7月18日 琉球新報）
 満洲国九州村の沖繩班から早くも嬉しい報告（昭和14年7月26日 沖繩日報）
 義勇移民の慰問に父兄の視察団・本県から二名選抜（昭和14年7月27日 沖繩日報）
 青少年義勇軍訓練所各県に設置・拓務省から県に通牒（昭和14年8月4日 沖繩日報）
 移植民訓練所を設け、満洲農業移民の指導（昭和14年8月12日 沖繩日報）
 第三次満洲視察団一行十一名十八日に出発（昭和14年8月16日 沖繩日報）
 移民訓練の徹底・那覇本所と糸満に支所（昭和14年8月16日 沖繩日報）
 青少年義勇軍、けふ壮途へ（昭和14年8月25日 沖繩日報）
 満洲視察の沖繩班一行・九月七日帰途へ（昭和14年9月4日 琉球新報）
 第四次義勇軍募集を開始・来る二十六日から選考（昭和14年9月16日 琉球新報）
 農村経済更生は満洲移民で解決・県が四ヶ村に助成（昭和14年9月24日 沖繩日報）
 花嫁さんを迎へに満洲の拓士帰郷（昭和14年10月9日 琉球新報）
 満洲小集団開拓民・本県で募集協議会開く（昭和14年10月10日 琉球新報）
 金口木舌（昭和14年10月19日 琉球新報）
 満洲開拓民募集・更に四十戸追加された（昭和14年10月24日 琉球新報）
 小集団満洲開拓民・三百戸入植計画（昭和14年10月25日 琉球新報）
 *満洲移民の実際（一）（四）（昭和14年11月26日）29日 沖繩日報 琉球新報
 南方海外と大陸満洲へ「拓殖」一大飛躍の再発足（昭和14年12月7日 琉球新報）
 満洲集団開拓民・本県割当三百戸決定（昭和14年12月14日 琉球新報）
 満洲開拓入植地・本県は三江省に決定（昭和15年1月11日 琉球新報）

150 150 150 150 149 149 149 148 148 148 147 147 147 146 146 145 145 144 144 143

満洲開拓協力・協議会を各県で開催（昭和15年1月11日 琉球新報）
 満洲開拓の完遂に「協力会」を設置（昭和15年1月27日 沖繩日報）
 那覇市に移民訓練所、糸満に漁民道場設置（昭和15年2月2日 琉球新報）
 *南洋視察団（一） 南洋課長 浅香良一（昭和15年2月10日 沖繩日報）
 *南洋視察団（二） 南洋課長 浅香良一（昭和15年2月14日 沖繩日報）
 大陸で更生の窮状の村（昭和15年2月14日 大阪毎日）
 満洲移民を毎年四十一名・恩納村の更正対策（昭和15年2月14日 沖繩日報）
 *南洋視察団（三） 南洋課長 浅香良一（昭和15年2月15日 沖繩日報）
 *十五年第一次満蒙開拓義勇軍入所期日（昭和15年2月15日 琉球新報）
 満蒙の大陸に恩納村建設（昭和15年2月15日 琉球新報）
 *南洋視察団（四） 南洋課長 浅香良一（昭和15年2月16日 沖繩日報）
 *南洋視察団（五） 南洋課長 浅香良一（昭和15年2月17日 沖繩日報）
 満洲国徴兵制度・明年六月より実施（昭和15年2月17日 琉球新報）
 大陸の花嫁養成（昭和15年2月17日 琉球新報）
 移民送出増加達成に満洲認識の大運動・婦人の協力で義勇軍編成（昭和15年2月17日 沖繩日報）
 *満洲「沖繩郷」の開拓士・險の花嫁迎へに帰る（昭和15年2月18日 琉球新報）
 *南洋視察団（六） 南洋課長 浅香良一（昭和15年2月20日 沖繩日報）
 移民政策確立に耕地人口調査・農村労力の需給調整（昭和15年2月19日 沖繩日報）
 *南洋視察団（七） 南洋課長 浅香良一（昭和15年2月21日 沖繩日報）
 *村長さん自ら一家挙げ満洲の沃野に挺身移住（昭和15年2月27日 琉球新報）
 大陸へ健児三百名・学童の拓殖訓練終る（昭和15年3月5日 沖繩日報）
 大陸へ送る若き拓土団・地元の猛訓練終る（昭和15年3月10日 大阪朝日）
 *座談会・医療施設完備する満洲への県民雄飛を（昭和15年3月18日 沖繩日報）

156 156 156 156 156 155 155 154 154 153 153 152 152 152 152 152 151 151 151 150

満蒙開拓の鉄の戦士・義勇軍四十六名決定（昭和15年3月23日 琉球新報）	157
初の移民訓練所長・渡嘉敷中城校長に決定（昭和15年4月20日 沖縄日報）	157
*満州開拓奉仕隊・六月十日渡満（昭和15年4月23日 琉球新報）	157
満拓応援班・分村計画町村から送出（昭和15年5月8日 沖縄日報）	157
分村計画による初の満州開拓農民先遣隊（昭和15年5月8日 琉球新報）	158
分村計画による初の満州開拓民六十八名きのふ壮途へ（昭和15年5月19日 琉球新報）	158
移民訓練所を拡充、年二千名養成（昭和15年5月19日 沖縄日報）	158
*興亜の大地に聖鉄揮ふ満州建設奉仕隊（昭和15年5月21日 琉球新報）	159
移民訓練所長行悩み状態・他府県より招聘か（昭和15年5月21日 琉球新報）	159
行け、満州開拓へ・青少年義勇軍市町村割当（昭和15年5月23日 琉球新報）	161
満拓義勇隊・六月十一日鉄翼へ入所（昭和15年5月26日 沖縄日報）	161
*満州開拓団送出計画編成機関を整備（昭和15年6月28日 琉球新報）	161
*満州建設奉仕隊・師範分隊十三日発（昭和15年7月12日 琉球新報）	161
先遣隊近く渡満・沖縄県宜野湾村分村計画（昭和15年8月6日 大阪朝日）	161
満州視察へ・沖縄県中城校宮城栄子先生（昭和15年8月6日 大阪朝日）	161
家族招致のため満州開拓団帰る（昭和15年8月20日 琉球新報）	162
満州視察へ五校長出発・けふ宮古丸便で（昭和15年9月15日 琉球新報）	162
大陸に鉄を揮つて3月・満州国建設奉仕隊帰る・青年五十三名尊い汗の体験（昭和15年9月16日 琉球新報）	162
南方開拓の国立移民訓練所・拓務省が本県に計画（昭和15年9月20日 琉球新報）	163
満州開拓民に朗報・一ヶ月十五円の生計費を補助（昭和15年10月6日 琉球新報）	163
満州開拓団・家族招致に帰県（昭和15年10月6日 琉球新報）	163
国立移民訓練所・金武村に設置決まる（昭和15年10月19日 琉球新報）	164
国立移民訓練所・幹部卅名、実習生活百名収容（昭和15年10月20日 琉球新報）	164

雄々しく揮う大陸開拓の鉄・打建られる沖縄村（昭和15年10月24日 琉球新報）	164
満州開拓の女子指導者講習（昭和15年10月24日 琉球新報）	165
満洲開拓民奨励・三郡に委員を設置（昭和15年10月26日 琉球新報）	165
満州開拓民の負債整理に・農林省が許可申請（昭和15年11月1日 琉球新報）	166
寒さにも負けないゾ・沖縄県民の北満拓士（昭和15年11月9日 大阪朝日）	166
拓南訓練所・三月一日愈よ開設（昭和16年2月19日 大阪朝日）	166
拓南海の戦士訓練所・来る一日両所で入所式（昭和16年2月21日 大阪毎日）	167
海に陸に南を拓け！・拓南両訓練所開く（昭和16年3月5日 大阪毎日）	167
拓南戦士の訓練・帰還勇士の三氏が指導（昭和16年5月9日 大阪毎日）	168
「拓南の歌」募集・入賞者へ百円（昭和16年6月13日 大阪毎日）	168
行け満蒙へ・義勇軍に後援会（昭和16年6月14日 大阪毎日）	168
南進機運に拍車・拓南同志会生る（昭和16年6月24日 大阪毎日）	168
「拓士の家」建設（昭和16年6月28日 大阪毎日）	168
すばらしい成績・満州開拓団現地日より（昭和16年9月27日 大阪朝日）	169
糸満の海に練る・漁村の青年卅六名元氣浼刺（昭和16年10月31日 大阪毎日）	169
栄える満州本県集合開拓団・文化計画へ先づ学校建設（昭和16年12月3日 大阪毎日）	169
行け南方へ！・拓南訓練所ひらく（昭和17年1月8日 大阪毎日）	170
*「拓南の歌」決る・県あて本社支局で曲譜贈呈（昭和17年1月11日 大阪毎日）	170
拓南戦士送出へ・農林学校に訓練所設置（昭和17年1月28日 大阪毎日）	170
壮途に上る五十名・満州国建設勤労奉仕隊（昭和17年4月15日 大阪毎日）	170
東亜の宝庫拓く・漁民二百名を先づ送出（昭和17年4月17日 大阪毎日）	170
一刻も早く南方建設へ・引揚げ農業者座談会（昭和17年4月18日 大阪毎日）	171
引揚げ漁民再訓練・南方拓南講習会始まる（昭和17年4月22日 大阪毎日）	171

南方拓土に聞く・本社那覇支局主催座談会（一）（昭和17年4月26日 大阪毎日）	171
*南方拓土に聞く・本社那覇支局主催座談会（二）（昭和17年5月3日 大阪毎日）	172
光被せよ皇道精神・この腕で築く南方共栄	
*南方拓土に聞く・本社那覇支局主催座談会（三）（昭和17年5月10日 大阪毎日）	172
共栄圏の基築くには、南方婦人と結婚せず	
*南方拓土に聞く・本社那覇支局主催座談会（終）（昭和17年5月17日 大阪毎日）	172
標準語を上達して、掴めよ総合的な積極性	
漁民の自由出稼ぎ許さず・南方への送出は県漁連で一元統制（昭和17年5月17日 大阪毎日）	172
糸満に拓南協会・漁夫に組織と計画性を（昭和17年6月30日 大阪毎日）	172
女も満州へ雄飛せよ・開く地方女子指導者養成講習会（昭和17年8月14日 大阪毎日）	172
遅し渡満熱・分村計画子弟村真壁、知念両村（昭和17年11月25日 大阪毎日）	173
入植地さまる・第12次集団開拓団（昭和18年4月2日 大阪毎日）	173
大陸開拓団の母村分村を一体化（昭和18年4月16日 大阪朝日）	174
大陸の花嫁幹旋・県下に女子拓殖指導員新設（昭和18年4月18日 大阪毎日）	174
分村計画決る・大陸へ二千七百戸・五村から十二年間に送る（昭和18年7月25日 大阪朝日）	174
満蒙開拓に鉄の進軍（昭和18年8月27日 大阪毎日）	175
大陸分村の朗らかな話題・出産率も全満一です（昭和18年10月9日 大阪朝日）	175
百名送出割当・満蒙開拓義勇軍（昭和18年10月12日 大阪朝日）	176
満州へ三百戸分村・具志頭の村民総決起（昭和18年10月14日 大阪毎日）	176
満蒙に光る南海魂（昭和18年10月20日 大阪毎日）	177
分村計画懇談・中頭郡勝連村（昭和18年10月27日 大阪朝日）	177
理想境建設の先遣隊進発・大陸の沃野に九百戸の農家移住（昭和18年11月30日 大阪毎日）	177
伸びろ沖縄・下―農村から五千戸を送出―（昭和18年12月10日 大阪朝日）	178

軍需方面と大陸開拓に・五万戸が県外雄飛（昭和18年12月12日 大阪毎日）	179
大沖縄市の建設・十ヶ年五万戸の分村計画（昭和18年12月17日 大阪朝日）	179
大計画語る泉知事・沖縄の全面的建直し・五万戸送出（昭和18年12月22日 大阪毎日）	180
分村大計画語る泉知事・第二の故郷建設へ（昭和19年1月8日 大阪毎日）	180
大陸進駐の気魄昂揚・十ヶ集団編成確保と分村指導の徹底期す（昭和19年1月27日 大阪毎日）	180
分村の先遣隊送出・石炭戦士には甘いものを贈りたい・泉知事帰任談（昭和19年1月30日 大阪毎日）	180
懸案の分村計画急速に実施・皇国農村確立委員会を結成（昭和19年2月9日 大阪朝日）	182
分村計画を審議・第一回皇国農村確立委員会（昭和19年2月15日 沖縄朝日）	183
移動座談会・五万戸分村計画を聴く・焦眉の急の労務供出と食糧自給（昭和19年2月24日 大阪朝日）	184
活発な論戦を展開・五万戸分村の第一回委員会（昭和19年2月24日 大阪朝日）	186
十ヶ年に五万戸送出・皇国農村確立大評定（昭和19年2月26日 大阪毎日）	187
皇国農村の確立と分村・農家五万戸可能と決れば送出断行（昭和19年3月7日 大阪毎日）	189
十九年度実績で対処・五万戸分村問題の協力を要請（昭和19年3月7日 大阪毎日）	193
本県から五十名・満州報国農場隊に参加（昭和19年3月10日 大阪毎日）	194
大陸開拓へ先遣隊・四月中に三百名が渡満（昭和19年3月31日 大阪毎日）	194

海南島・三龍島

杜蠟王、宮城新昌氏南進政策線上に起つ（昭和14年5月11日 琉球新報）	195
県民の新たな発展地・海南島に沖縄村を建設（昭和14年5月12日 沖縄日報）	195
海南島へ一万人！・沖縄村の建設（昭和14年5月16日 沖縄日報）	195
△△島移民・西宮社会課長打合せの為けふ空路渡台（昭和14年5月23日 沖縄日報）	195

南支へ送出する次男、三男を調査（昭和14年6月2日 琉球新報）	195
新南方移民計画に備へ県が基本資料を作製（昭和14年6月8日 沖繩日報）	196
* 出稼の気持ちを捨て海南島の土となれ・返子八郎氏講演（昭和14年6月14日 琉球新報）	196
海南島への農業移民は治安確立まで送出困難（昭和14年7月17日 琉球新報）	196
義勇移民の慰問に父兄の視察団・本県から二名選抜（昭和14年7月27日 沖繩日報）	197
南支の宝庫三竈島へ小禄村から五十家族（昭和14年7月28日 沖繩日報）	198
沖繩移民の新天地・血にじむ南海の孤島にわが海軍旗はためく・香港近くの三竈島（昭和14年8月11日 琉球新報）	198
* 開拓の手を待つ海南島を語る 県技師・安保愛染 一〇四（昭和14年8月12日 沖繩日報）	199
三竈島への拓土・小禄、名護、大宜味、羽地から申込む（昭和14年8月23日 琉球新報）	199
南洋移民送出状況・拓務省が直接調査（昭和14年8月28日 沖繩日報）	199
〇〇名の労務者を〇〇島へ送り出す（昭和14年9月5日 琉球新報）	199
広告（南支〇〇島行労務者募集）（昭和14年9月8日 沖繩日報）	199
南支〇〇島移民・開洋会館で訓練（昭和14年9月18日 琉球新報）	200
〇〇島移民壮行会・けふ開洋会館で（昭和14年9月26日 琉球新報）	200
南支行の移民・勇躍出発す・きのふ那覇港の賑ひ（昭和14年9月28日 琉球新報）	200
広告（南支〇〇島行労務第二次者大募集）（昭和14年10月20日 琉球新報）	201
南支〇〇島で早くも道路開設と蔬菜作り（昭和14年10月24日 琉球新報）	201
わが南支海軍部隊が突如、海南島に大機滅戦（昭和15年3月6日 琉球新報）	202
海南島の四分三軍艦旗で席巻す（昭和15年3月15日 琉球新報）	202
海南島作戦・西岸の掃蕩着々進む（昭和15年3月15日 沖繩日報）	202
広告（南支〇〇島行労務者大募集）（昭和15年4月10日 琉球新報）	202
* 南支〇〇島に県が駐在訓導を置く（昭和15年4月17日 琉球新報）	203
* 南支〇〇島に開拓者組合設立（昭和15年5月26日 琉球新報）	203

南支方面行の軍需労務員募集・六月中旬那覇と名護で（昭和15年5月31日 琉球新報）	203
沖縄の海南島進出（昭和15年6月20日 沖繩日報）	203
南支〇〇島に開拓者組合を設立（昭和15年6月23日 琉球新報）	203
布哇の県人の間に海南島移住の声！（昭和15年6月30日 沖繩日報）	204
南支〇〇島行軍需労務者送出・来る十一月中旬募集（昭和15年10月3日 琉球新報）	204
海南島肅清・海軍部隊活動（昭和15年12月4日 琉球新報）	204
住みよい三比島・前田さんのお土産話（昭和18年3月27日 大阪朝日）	204
すべてが郷土と同一・遅し南進する沖繩開拓団（昭和18年4月3日 大阪朝日）	205
その名も興亜第一国民学校・孤島で教育挺身の糸数訓（昭和18年4月15日 大阪朝日導）	205
第二の沖繩を・三比島へ近く家族も（昭和18年4月22日 大阪毎日）	206
沖繩拓土の逞しい凱歌・分村の気魄を示す三比島建設物語（昭和18年10月20日 大阪朝日）	206
海南島の生産増強は快調・池田長官東上（昭和19年7月13日 大阪毎日）	207

本土出稼

至急広告（長崎口之津築港請負人夫募集）（明治38年12月15日 琉球新報）	208
紡績工女募集に就て（明治39年8月26日 琉球新報）	208
紡績工女募集に就て（明治39年8月29日 琉球新報）	208
広告（大阪福島紡績株式会社）（大正8年11月5日 沖繩時事新報）	208
広告（八幡製鉄所職夫募集）（大正8年11月10日 沖繩時事新報）	209
広告（大分紡績工女募集）（大正11年3月26日 沖繩タイムス）	209
乳子を置きに紡績へ行く女の「欠」・今日出る船で大阪に「欠」（大正11年3月30日 沖繩タイムス）	210

紡績女工募集・信頼すべき人〔欠〕・「授産社」設立計画（大正11年4月5日 沖縄タイムス）	210
授産社の設立に県当局も漸次了解・女工募集界裏面の弊害を一掃するが急務（大正11年4月13日 沖縄タイムス）	210
近頃郡部には若い娘の姿がとんと見られなくなった・紡績へ紡績へ（大正11年4月25日 沖縄タイムス）	210
川崎紡績工場〔欠〕 沖縄女工同盟休〔欠〕（大正11年4月28日 沖縄タイムス）	211
沖縄女工約千名で川崎工場大（数字欠）・同盟休業続□□□（大正11年4月29日 沖縄タイムス）	211
千鳥節を唄ひ泣いて暮す沖縄女工の実情・川崎工場の一県人から本社を通じ県民に訴ふ（大正11年4月29日 沖縄タイムス）	211
広告（東京毛織株式会社女工募集）（大正13年3月29日 沖縄タイムス）	212
本県女工のお陰で操業を継続す・和歌山紡の労働争議（大正13年7月3日 沖縄朝日）	212
広告（保土ヶ谷絹糸女工募集）（大正13年11月7日 沖縄タイムス）	213
広告（相模紡績女工募集）（大正13年12月16日 沖縄タイムス）	213
広告（富士瓦斯紡績女工募集）（大正13年12月18日 沖縄朝日）	213
広告（倉敷紡績女工募集）（大正14年1月10日 沖縄朝日）	213
広告（相模紡績女工募集）（大正14年1月14日 沖縄タイムス）	214
農村を見捨てて県外に飛出す青年男女がこの一月に六、七百名に上る（大正14年2月2日 沖縄朝日）	214
広告（相模紡績女工募集）（大正14年2月2日 沖縄朝日）	214
若い農村娘を釣る悪募集人退治（大正14年2月6日 沖縄朝日）	214
学齡中の幼女まで釣る女工募集（大正14年2月8日 沖縄朝日）	214
広告（富士紡績株式会社 大阪工場・川崎工場募集）（大正14年4月13日 沖縄朝日）	214
広告（東京モスリン・上毛モスリン女工募集）（大正14年9月25日 沖縄朝日）	215
多数の本県女工足留め監禁同様・川崎紡績争議悪化す（大正14年11月26日 沖縄タイムス）	215
県外出稼労働者とその送金高・月六円も越へない・出稼者数二万五千人（大正14年12月12日 沖縄朝日）	216
糸満女工酷使の名古屋近藤紡績（大正15年3月10日 沖縄タイムス）	216
片倉製糸行きの高女卒業生出発・採用人員三十名で将来は女工の指導者（大正15年5月11日 沖縄朝日）	216

県外で働く男女工から一年に六十二万六千余円の送金（大正15年5月16日 沖縄タイムス）	216
募集人御無用の出稼女工増加（昭和2年7月31日 沖縄タイムス）	217
県外出稼募集人・沖縄で退治（昭和4年10月5日 大阪朝日）	217
落魄の姿で帰る紡績女工を迎へて遊廓や料理屋へ売る（昭和5年5月16日 大阪毎日）	217
神に仕へる女工さんが卅円寄贈・沖縄県知事宛に（昭和6年1月21日 大阪毎日）	217
女工が稼ぐ十五万円・沖縄の調査（昭和7年2月25日 大阪毎日）	218
沖縄出身の女工が救済方を・県保安課へ陳情（昭和10年6月4日 大阪毎日）	218
月収僅か五十銭・一女工から悲痛な手紙・沖縄県が女工の流出防止（昭和11年11月6日 大阪毎日）	218
広告（和歌山紡績女工募集）（昭和13年3月30日 琉球新報）	218
広告（和歌山県日高紡績女工募集）（昭和13年4月27日 琉球新報）	219
広告（和歌山紡績株式会社女工募集）（昭和13年6月14日 琉球新報）	219
広告（労務者募集）（昭和14年5月1日 沖縄日報）	220
広告（大東紡績名古屋工場女子工員募集）（昭和14年7月10日 沖縄日報）	220
広告（三菱長崎造船所工員出張募集）（昭和14年7月11日 沖縄日報）	220
「紡績工場に於ける保健と風紀の問題」(一) 那覇職業紹介長 河村静観（昭和15年1月25日 琉球新報）	221
「紡績工場に於ける保健と風紀の問題」(二) 那覇職業紹介長 河村静観（昭和15年1月26日 琉球新報）	222
「紡績工場に於ける保健と風紀の問題」(三) 那覇職業紹介長 河村静観（昭和15年1月26日 琉球新報）	222
「紡績工場に於ける保健と風紀の問題」(四) 那覇職業紹介長 河村静観（昭和15年1月27日 琉球新報）	223
女工の立場から（上） 大城静子（昭和15年2月2日 琉球新報）	224
広告（電気化学工業工員募集）（昭和15年4月29日 沖縄日報）	225
「女工」を改名・ふさはしい呼称を募集（昭和15年6月26日 沖縄日報）	225
紡績工から県下の女性へ・綿々と訴ふ女工悲話（昭和15年6月29日 沖縄日報）	226
県出身女工の移動癖に迷惑する県外工場・那覇職組が漫然移動防止対策（昭和15年9月29日 琉球新報）	227